

眼 科 学

科目責任者：永 田 万由美（眼科）

I. 前 文

近年の高齢化社会および眼疾患患者数の増加に伴い眼科医への需要が高まっており、手術機器や薬剤など眼科医療の進歩は目覚ましい。基礎や臨床研究および臨床医療を間近で体験することで、眼科学の魅力に触れ、知識を習得することを目的とする。

II. 受入可能人数

若干名

III. 担当教員

永 田 万由美（眼科） 向 井 公一郎（眼科） 岡 安 彬 彦（眼科） 山 崎 駿（眼科）
松 島 博 之（眼科） 妹 尾 正（眼科）

IV. 学習内容

講義による眼科学の基本的知識を習得後、豚眼を用いた手術実習、動物実験や細胞培養を通じた基礎研究にも参加してもらおう。また、外来や手術室における臨床見学、検査機器を使用した実技実習を行う。

V. 学修の到達目標

眼科疾患およびその検査、治療法についての知識の習得、また実験を通して基本的な基礎研究の手技について学ぶ。

VI. 成績評価の方法・基準

学習内容についてのレポート提出。

VII. 教科書・参考図書・A V資料

必要な教材を準備し、供覧、配布します。

VIII. 質問への対応方法

メールにて随時対応します。

獨協医科大学眼科学教室 永 田 万由美 mayu-mie@dokkyomed.ac.jp

IX. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間 *（ ）内はそれに必要な時間の目安

事前学習：眼の解剖およびその機能についての簡単な予習（1時間）

事後学習：実習にて経験した眼疾患の復習（1時間）

X. コアカリ記号・番号

PS-02-15：「眼・視覚系」

-01, 02, 03, 04, 05すべて

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

実習中にその都度フィードバックを行う。

不足分に関してはメールでのフィードバックを行う。

Ⅻ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

二学年